

最後の夏 俺も甲子園に

第90回選抜高校野球大会で準優勝した智弁和歌山高(和歌山県)で背番号12を付けた目代康悟選手は八戸市立根城中出身で、中学時代は硬式野球チーム「八戸東リトルシニア」に所属。八学光星高で昨秋主戦を務めた福山

優希選手(3年)とは同シニアで共に白球を追い掛けた同士だ。4日の決勝をテレビ観戦した福山選手は「練習熱心だった」とかつてを振り返りつつ、夏の甲子園で再会したいーと闘志を燃やした。(金濱千優希)

福山投手(光星)闘志新た

春準V・智弁和歌山に同期の目代選手

共に八戸東シニアで汗



センバツ決勝戦をテレビ観戦する福山優希選手(手前)＝4日、八戸市内

目代選手は身長185センチ、体重80キロ。智弁和歌山に投手として入部。昨冬捕手に転向し、今大会は準決勝と決勝に代打で出場した。同シニアでは主に一塁手として活躍。当時からチームを指揮する山辺周平監督(34)は「体が大きく、力強い打撃が光っていた」と語った。高校でのプレーを目指した目代選手と福山選手は、市内の体育施設で一緒に筋力トレーニングなど自主練習に励んだ日も。「大きな容器の弁当を全部食べ、間食もしていた」という目代選手にも余念がない姿勢に、福山選手も刺激を受けた。4日午後、八学光星高の硬式野球部の寮では部員約80人が試合観戦。最終回に代打出場した目代選手がテレビ画面に映ると、懐かしい姿に福山選手は思わず笑みをこぼした。ただ、悔しさもこみ上げた。「自分はまだ甲子園に行けていない。離されてしまったな」

青森県内では14日から各地区の春季大会が開幕。高校野球シーズンへ突入する。旧友との対戦をかなえるため、今は懸命に腕を振る。